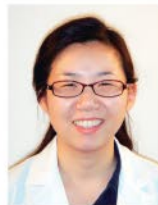


HEALTH

心と体のメンテナン

10月のトピック ◆ ホルモンの話

代謝を調整する甲状腺ホルモン



ヒュン・ジリー先生

家庭医学専門医。内科をはじめ、婦人科、小児科の診療を手掛ける。ニューヨーク州立大学アップステート医科大学卒業。フローティング病院 (The Floating Hospital) にも籍を置き、ホームレス家族を対象としたプライマリーケアにも力を入れる。

AQ 甲状腺ホルモンとは何ですか？

のどぼとけの下にある甲状腺から分泌されるホルモンで、新陳代謝を活発にすると同時に、成長ホルモンとともに、骨の成長や神経系の発達を促します。特定の食べ物、たとえば海藻類に含まれるヨードは、甲状腺ホルモンの分泌に良い影響を与えます。米国の一般的な食生活ではヨード摂取量が不足しがちなため、それを補う目的で、食卓塩にヨードが添加されています。

AQ 分泌に異常があるとどうなりますか？

甲状腺ホルモンが出すぎると、新陳代謝が必要以上に促進され、体が常に過剰に活動しているような状態になります。その結果、まるで走っているかのように汗をかく、手足が震える、動悸が激しい、血圧が上がると、特に理由もないのにイライラして落ち着かない、不安になる、いくら食べても空腹感があり太らない、体重が減る、などの症状が現れます。反対にホルモンの分泌が

少なすぎると、代謝が低くなり、冬眠しているかのように体の働きが鈍化します。主な症状は、慢性疲労、脈拍数が少ない、冷える、生理不順、便秘など。体がむくみ、体重が増えることもあります。気分が落ち込む、物忘れがひどい、元気が出ないといった、精神的症状が出ることもあります。ホルモンが異常に分泌されている場合にも言えることですが、精神科の病気を疑って精神科にかかり、そこで血液検査を受けて初めてホルモン異常が分かることも少なくありません。

甲状腺ホルモンの異常を引き起こす病気には、自己免疫疾患であるバセドウ病や橋本病、甲状腺内の腫瘍などが挙げられます。血液検査でホルモンの分泌を調べるとともに、甲状腺の超音波検査や組織検査をして診断します。異常があれば、その原因を治療すると同時に、薬でホルモンの量を調整します。

AQ 妊婦が甲状腺異常になると？

妊娠中、甲状腺ホルモンが十分に分泌されていない場合、胎児の脳や体の発達に問題が生じ、知能障害が起きたり、背が伸びなくなったりすること

があります。早産や流産の危険も高くなるため、妊婦や妊娠を考えている女性は、甲状腺機能の検査を受けて、問題があれば早めに治療することが大切です。米国では、ホルモン検査は妊娠中の検査の一つとして普通に実施されます。

AQ 異常は女性に多いというのは本当？

それは誤解です。統計的に女性の方が男性よりも医師にかかる傾向があり、異常が女性で見つかりやすいというだけで、男性で少ないというわけではありません。50歳を過ぎたら、性別に関係なく、定期健診の一環としてホルモン検査を受けることが推奨されています。

※来月は、自死遺族支援グループを主宰する臨床心理学博士、花川ゆうこさんに、自殺者の遺族の精神サポートについて伺います。

INFORMATION

Hyun Ji Lee, MD
Nihon Clinic
15 W. 44th St., 10th Fl.
(bet. 5th & 6th Aves.)
TEL: 212-575-8910
www.nihonclinic.com
Manhattan Wellness Medical Care
16 E. 41st St., 6th Fl.
(bet. Madison & 5th Aves.)
TEL: 212-532-8910